地球環境

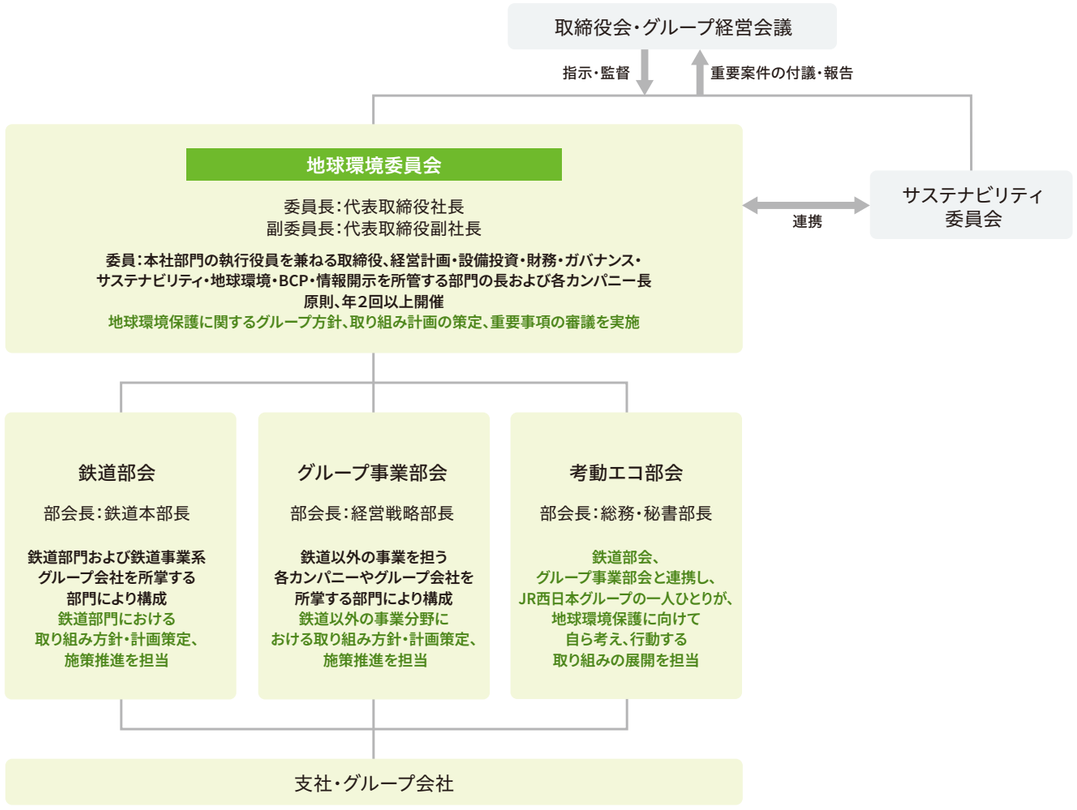
地球環境に関するJR西日本グループの 考 え 方

JR西日本グループは、社会インフラを担う企業グループとして、長期ビジョンに「安全、安心で、人と地球にやさしい交通」や「持続可能な社会」を掲げ、環境をはじめとするサステナビリティの取り組みを推進しています。

環境の分野では、地球温暖化・気候変動を踏まえた脱炭素社会への移行や、水資源、生物多様性といった自然資本の保護の動きが急激に早まっています。なかでも気候変動については、その対応を将来にわたっての事業継続のための重要な経営課題であると認識し、リスクに対処するとともに、環境にやさしい輸送手段である鉄道の強みをさらに磨き、地域の皆様やお客様に鉄道の環境優位性を広くお伝えすることを通じて、脱炭素社会に向けた行動変容を促し、それを機会として最大限に活かしつつ、グループの事業活動を通じて持続可能な社会づくりに貢献していきます。

地球環境保護の取り組みの推進体制

私たちは地球環境保護を重要な経営課題と認識し、地球環境保護に関するグループの基本方針、中長期の取り組み計画および目標設定といった重要事項を審議し、取り組みを推進する体制として、代表取締役社長を委員長とし、本社部門を所管する業務執行取締役や主な部門長で構成する「地球環境委員会」を設置しています。地球環境委員会の審議事項のうち、重要なものはサステナビリティ委員会やグループ経営会議、取締役会にも付議・報告し、経営マネジメントにおいて共有を図っています。



地球環境への取り組みに関する情報は以下のページをご参照ください
地球環境への取り組み
▶ https://www.westjr.co.jp/company/action/env/

JR西日本グループ環境基本方針

私たちは、社会インフラを担う企業グループとして、地球環境の保護を通じ、長期ビジョン2032の「安全、安心で、人と地球にやさしい交通」と「持続可能な社会」の実現に貢献していくにあたり、「JR西日本グループ環境基本方針」を策定しました。取り組みの柱として「地球温暖化防止・気候変動対策」「循環型社会構築への貢献」「自然との共生」の3つを掲げています。長期ビジョン2032、中期経営計画2025においては、これら3つの分野において、グループ共通と各カンパニーの目標指標を設定し、グループ一体で事業活動での環境負荷低減に取り組んでいます。

JR西日本グループ環境基本方針

基本指針	社会インフラを担う企業グループとして、地球環境保護の取り組みを通じ事業活動の基盤である社会の持続可能性を高めることに貢献します。
取り組みの柱	地球温暖化防止・気候変動対策
	循環型社会構築への貢献
	自然との共生（生物多様性、水資源の保護等）
基盤	グループ一人ひとりの考動エコ・着実な環境マネジメントの推進

■ 長期ビジョン2032/中期経営計画2025の目標指標（KPI） ※太字は2025年度目標の前倒し達成

区分	目標指標	2024年度実績	目標値
グループ共通	CO_2排出量（連結スコープ1+2・2013年度比）	170万t-CO_2（▲21%）	2025年度 139万t-CO_2（対2013年度比▲35%） 2030年度 107万t-CO_2（対2013年度比50%）
	PETボトル水平リサイクル提供量	**57t/年**	2025年度 50t/年
	水使用量（連結売上高当たりの原単位）	**5.7m³/百万円**	2025年度 6.5m³/百万円
鉄道カンパニー	省エネルギー型車両比率	**94.9%**	2025年度 93% 2027年度 95%
	エネルギー消費原単位削減率（2013年度比）	▲2.8%	2025年度 ▲5.5% 2027年度 ▲6.5%
	列車運転用電力の再生可能エネルギー由来電力導入比率※1	新幹線4.7% **大阪環状線・JRゆめ咲線100%**	2025年度 新幹線 6% 大阪環状線・JRゆめ咲線合計 60% 2027年度 新幹線10% 大阪環状線・JRゆめ咲線合計100%
	次世代バイオディーゼル燃料の鉄道での実用化	走行試験実施、結果良好	2025年度 気動車営業列車への実装
	駅ごみ・列車ごみリサイクル率	**99.3%**	2025年度 99%
	設備工事資材発生品リサイクル率	95.1%	2025年度 97%
	車両資材発生品リサイクル率	**98.6%**	2025年度 95%
物販・飲食カンパニー	コンビニエンスストア・土産事業の消費電力量（年間消費電力の店舗面積当たりの原単位）	**0.505千kWh/m²**	2025年度 0.553千kWh/m²
ホテルカンパニー	プラスチック製品使用量の削減	**・プラスチック製アメニティ※2の環境配慮素材転換率100%** ・使い捨てプラスチック製品使用量約21t/年 **・客室提供飲料水紙製パックに切替え済**	2025年度 プラスチック製アメニティなど※2の環境配慮素材転換率100% 使い捨てプラスチック製品使用量10t/年（対2019年度比▲70%削減） 客室提供飲料水のPETボトル使用ゼロ
ショッピングセンターカンパニー	CO_2排出量（年間延べ営業面積当たりの原単位）	0.0346t-CO_2/年間営業時間×千m²	2025年度 0.0321t-CO_2/年間営業時間×千m²
不動産カンパニー	賃貸物件からのCO_2排出量（2013年度比）	**3.2万t-CO_2/年**	2025年度 4.4万t-CO_2/年（対2013年度比▲42%）

※1 新幹線は山陽新幹線および北陸新幹線の当社区間の列車運転用電力が対象
※2 プラスチック資源循環促進法に定める特定プラスチック製品（宿泊業）：スプーン、フォーク、ヘアブラシなど、カトラリー・アメニティ類10種が対象